

10 研究指導プロセス概要

社会学専攻【博士前期課程（修士課程）】

博士前期（修士）課程においては、正規の指導教員を含めて2名の教員が修士論文の完成まで指導を行う。学術論文執筆の能力を獲得するとともに学術情報発信の実験を経験するために、『社会学論集』への執筆と編集責任者となることも奨励される。第一線の研究者を招いた学術講演会も開催され、参加が要請される。

時 期	項 目	
1 年 次	4月	研究科ガイダンス 大学院での研究・履修・学生生活についての説明 今年度発行の『社会学論集』責任者確認
	4月	春学期開始 定例研究科委員会において、院生の指導体制を決める ・新入生の大学院指導教員（主査・副査）を決める 履修届確認後、指導チームを編成する ・以後、指導チームから修士論文の作成に関する指導を受ける
	6月～12月	学術講演会の開催
	7月	授業等改善のためのアンケート（春学期）実施
	9月	秋学期の履修登録（修正）
1月	授業等改善のためのアンケート（秋学期）実施	
2 年 次	4月	研究科ガイダンス 今年度発行の『社会学論集』責任者確認
	4月	春学期開始 ・在学生の大学院指導教員（主査）の確認及び指導状況報告
	6月～7月	修士論文中間報告会
	6月～12月	学術講演会開催
	随時	修士論文予備研究計画書の提出 「大学院教育における社会調査実施上の倫理に関する申し合わせ」による
	7月	授業等改善のためのアンケート（春学期）実施
	9月	秋学期の履修登録（修正）
	11月～12月	修士論文中間報告会
	12月	授業等改善のためのアンケート（秋学期）実施
	1月	修士論文提出
2月	修士論文合否判定	

※上記は予定であり、内容及び時期を変更する場合がある

社会学専攻【博士後期課程】

博士課程においては、学位論文の提出にあたっては、学会誌掲載論文もしくはこれに準ずる業績を1編以上もつことが必要条件として課されている。修士課程と同様、指導教員を含む複数の指導チームによる指導がなされるが、その際も学術誌への投稿論文の作成が中心となる。研究情報発信の経験を積むために『社会学論集』への投稿と編集は、修士課程に引き続き奨励される。

その結果、論文作成スケジュールは学生の専門分野や研究の進捗状況によって異なるため、修士課程のような決められたスケジュールはないが、随時研究科委員会における研究計画の承認や、最低年1回の博士論文中間発表会が学生ごとに行われる。

授業の履修を含む定められたスケジュールは、以下のものにほぼ限られる。

時 期	項 目	
1 3 年 次	4月	研究科ガイダンス 大学院での研究・履修・学生生活についての説明 今年度発行の『社会学論集』責任者確認
	4月	春学期開始 定例研究科委員会において、院生の指導体制を決める ・1年次生の大学院指導教員（主査・副査）を決める ・在学生の大学院指導教員（主査）の確認 履修届確認後、指導チームを編成する ・以後、指導チームから博士論文の作成に関する指導を受ける
	6月～12月	学術講演会の開催
	7月	授業等改善のためのアンケート（春学期）実施
	9月	秋学期の履修登録（修正）
1月	授業等改善のためのアンケート（秋学期）実施	

※上記は予定であり、内容及び時期を変更する場合がある